
平行世界のボーカロイドたち

アッサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平行世界のボーカロイドたち

【Nコード】

N8039X

【作者名】

アッサー

【あらすじ】

ボーカロイドたちが普通の一般市民として生活している話を書いてみました。

ちなみに世界観というか設定は平行世界になぜか主人公が迷い込んだということになっています。

一応コメディーです

トラック00 とりあえず登場人物の紹介しておこう（前書き）

勢いで作ってしまったボーカロイドの2次創作ですww

なるべくキャラは崩壊しないように注意しますが最初から崩壊して
いたらすいません

時進行中の小説があるため更新スピードはおそらく半放置状態にな
るかもしれませんががんばります

とりあえず登場人物からです

オリキャラは今のところ二人

あと、歌うことが皆無です

トラック00 とりあえず登場人物の紹介しておこう

四月一日 志月（わたぬき しづき） 16歳

この小説の主人公

同時進行中の小説の主人公と名字が一緒ですが全然関係はありません。また、兄にも弟にも親にも魔力を持った人はいません、もちろんこの子もそんなもんありません

両親は事故で亡くしているため現在一人暮らし

高校には行っていない（落ちた）

咲音 盟子（さきね めいこ） 23歳

酒豪で海の館では年長組に入る

どれだけ飲んでも酔うことがない（酔ったところを見たことがない）

人間離れた体質の人、面倒見のいいお姉さんの存在

たまにすごい時がある

始音 海斗（しおん かいと） 23歳

大のアイス好きで、季節を問わず冷凍庫にはアイスが入っている

お酒に弱いというわけではないがあまり飲まない、しかしいつも無理矢理盟子に飲まされている

盟子と同期で年長組のお兄さんの存在

神威学歩（かむい がくぽ） 23歳

侍（らしい）で年長組

侍（らしい）なのでしゃべり方も時代劇みたいな口調をしている

侍（らしい）のくせになぜか機械系統に強く、日本酒はあまり飲まない

巡音 流歌（めぐりね るか） 22歳

謎の多いミステリアスなお姉さん

わかってるのは酒豪とまではいかないがけっこう飲むらしいということと年長組に入るといことのみ

部屋に得体の知れない生物を飼っているとかいけないとか

初音 未来（はつね みく）16歳

普通の高校生で成績は中の少し下くらい

ネギ好きでなまで食べることもしばしば

天然で少しアホの子よりなトラブルメーカーの一人だが、少しなりとも自覚はあるらしい

篝音 救美（かがりね ぐみ）16歳

普通で普通の女の子、成績も真ん中くらいで、未来達とも仲がよく、いつも一緒にいるが、そのせいかトラブルに巻き込まれる事が多い

鏡音 鈴（かがみね りん）14歳

蓮と双子の姉弟で姉の方だが、成績で言うと蓮の方が少し上らしい
未来と救美とは仲がよい

凄く活発でしかも天然なせいではほとんどの事件の中心にいる海の館
最大級のトラブルメーカー（本人自覚なし）

ミカンが好き

鏡音 蓮（かがみね れん）14歳

鈴と双子の姉弟で弟の方、しかし性格は鈴とは全くの逆でいつも冷静で落ち着きもあるが、その反面、緊張が最高潮に達したり、一度パニックになると普段からは想像できないような暴走っぷりを見せ、その状態の時は鈴よりもたちのわるいトラブルメーカーとなってしまう

バナナが好きらしい

飯島 霧吉（いいじま きりよし）30歳

海の館の管理人

一言で言うところかなりの自由人で、管理人室にすることがあまり無く、いつも海釣りをしている

釣れた魚はみんなに配っていて、アパートに緊急事態が起こると20分以内にはどこにいても必ず帰ってくる

それなりの人望も持っており、みんなからは信頼もされている様子

：近所に住んでいる方々：

弱音 珀（よわね はく）23歳

海の館のお隣に住んでいるいつも気弱なお姉さん

この前年下の子に論破されたとか

盟子と海斗とは一緒の大学

盟子や海斗、学歩に流歌は飲み仲間

一人で飲むこともあって、一升瓶を抱えながら寝ることも

重音 テト（かさね てと）15歳（実年齢31歳）

（自称）永遠の15歳だが、ホントは31歳、しかし見た目はホントに15歳と間違えてしまうような姿で、流歌よりも謎の人

海の館の近くで居酒屋を営んでいる

盟子達行きつけの居酒屋

トラック00 とりあえず登場人物の紹介しておこう（後書き）

カイトとGUMIの名字と名前は正直言うと思います。

GUMIが無理やりなような気がしますですがスルーでお願いしますw

トラック01 別世界に迷い込んでも別に戦うわけではない(前書き)

ここから始まります。誤字脱字があれば感想欄をお願いします

トラック01 別世界に迷い込んでも別に戦うわけではない

「……ないね」

誰かの声があるが、意識がはっきりしないせいにかうまく聞き取れない。

「まさか……じゃった……？」

「いや、……があるし、大……だろ」

とりあえず、起きなくちゃいけないと思い、はっきりしない意識を集中させた。

「あ、起きた……」

目を開けると、まず視界に入ってきたのはでかいリボンを頭の上にくくってる顔だったが、驚く気力はなかった。

「蓮ー、目覚ましたよー……って、いないし……いつの間に出ていったのよ」

「あの……ここはいつたい……」

体を起こしながら聞いてみたときにドアが開き、ツインテールをした女の子が入っていた。

「鈴ちゃーん、様子はどう？……って、起きたんだ、おはよー」

「おはよう……ございます……あの、ここは？」

「ええーっと、ここは「海の館」っていう名前の通り海の近くにあるアパートで……といっても、入居者は私たちを含めて8人しかないし、管理人さんがちよつとね」

「アパート……ですか」

さつき目が覚めたばかりなので頭がよく回らない

「ちなみにここは102号室、別名集会場。なんで君がここで寝てたかはまた説明するから、ゆっくり休むといいよ」

「ありがとう……ございます……」

そついうと、二人の女の子は部屋から出ていった。

あの二人をどこかで見たことあるかとおもったが、俺はすぐに眠ってしまった。

トラック01 別世界に迷い込んでも別に戦うわけではない（後書き）

とりあえずミクとリンを出しました。

次で全員出す予定です

トラック02　く続く別世界に迷い込んで別々に戦うわけではない（前書き）

二話です。

おそらく前回と合わせて3、4話構成になりますw

トラック02 ー続ー別世界に迷い込んで別で戦うわけではない

（まだ十分しか立ってない……とりあえず今の状況を整理していかないと）

ゆっくり休むといいよといわれたが、すぐに起きてしまったので、志月は今の状況を整理することにした。

「あの子達、どっかで見たことがあるんだが……」
しばらくの沈黙のあと（まあ一人しかいないが）、志月の脳裏に VOCALOID という単語がよぎった

「……いやいやいややまてまてまてまて、確かに姿は似ていたがあれは想像上のキャラクターであって現実にはいないからそれはないとして……ん、でもコスプレにしては完成度がありえないほど高かった（つかもう初音ミクと変わらんかった）し、コスプレは絶対違和感があるけどあれにはまっただくなかったし……いやそれ以前にいくら寝ていたとはいえ全く知らない奴がいるのにそんなことできるなんてなにも考えてないよっほどのバカかかなりの勇気を持った勇者だぞ、しかも二人いたし。まあコスプレは可能性の一つに考えとこうか、あるとすれば前者だろう。てかコスプレ以外なんも思いつかん」

という考えに落ち着かして、次の疑問へと思考をうつす。

「次はここはどこだということだが……さっきの話ではアパートらしいが、「海の館」なんて聞いたことがないし、それに俺の住んでる辺りに海なんてない、どっちかというと山よりだし……いや、ちよつとまてよ、そもそも何で俺はこんなとこにいるんだ？ たしかいつも通り俺の部屋に戻ってきて簡単な夜食を済ましてシャワー浴びてそのままベッドにダイヴして眠って……」

どこにも見知らぬとこに移動する術が見当たらない志月は頭を抱えている。

「……何で俺はこんなとこにいるんだ？

まさか誘拐された？ いやでも親はもういないし一人暮らしだからメリットもないし……」

志月があれこれ考えていると、ノックがした

「あ、どうぞ」

「やつほー！ 調子はどうかな？ 志月君」

「あ、…… 大丈夫です…… って何で俺の名前を？」

「ごめんね、この人が勝手に君のケータイ見ちゃったんだ」

「なっ！！？ 確かロックしてましたよ！？ なんて解除できたんですか！？」

「ふっふっふ、ケータイのロックくらいこの私にかかれば容易いものよ」

盟子は、どーん！ という効果音が似合いそうなほど胸を張っている。
「それ、グレーゾーンだと思うけど……。 っと、自己紹介が遅れたね、僕は始音海斗で、こっちは……」

「咲音盟子よ、よろしくね」

「この人たちは…… 姿どころか名前も……？」

志月がそう呟くと盟子に何か言った？ と尋ねられた。

「あ、いや…… 何でもないです」

と、志月は答えたとき、盟子は一瞬だけ考え事をする表情になったがすぐに戻り、海斗に未来達を呼んでくるように言った。

盟子は海斗が出ていくのを見送ると、一息ついてから、こう志月に問いかけた。

「志月君、もしかして私たちのこと知ってるの？」

志月は思考が一瞬停止した。

「え？…… な…… ええ！？ なんでそんなことをいきなり？」

「私たちがさっき名前を言ったとき、一瞬だけ表情が曇ったから」

（この人…… すごすぎる……）

志月は自分が家に帰ってから今に至るまでの事を（わかってる範囲で）説明をした。

トラック02 〽続〽別世界に迷い込んで別々に戦うわけではない(後書き)

ホントに微妙なところで終わっちゃいました

続きが気になると思いますが待っていてください

あと、ミクたちは出せませんでした(笑)

トラック03 続・続 別世界に迷いこんでも別に戦うわけではない

志「……というわけなんですが……」

盟「なるほどね、要するに、気がついたらここにいたわけね」

志「は……はい」

気まずい沈黙が続く。

VOCALOIDの事も含め、一通り説明したが、自分でもはっきりわかってないのに信じてくれるわけがない

志「信じられないですよ、いきなりこんなこといっても……」

盟「いや、信じるわよ」

志「ですよ、信じて……ってええええ!!??ほんとですか!?!」

盟「うん、嘘をいつてるようにも見えないし、前は異世界からお客さんなんてこともあったし」

異世界からお客さんって……というより信じてもらえたことが信じられない。

普通なら引かれるか嘘をつくなんて言われるだろうに。

盟「それに、さっき聴かせてくれたばーかろいど?の声もそっくりそのまま私たちの声だったし」

一応、ケータイの着メロにとってある曲を聴いてもらったが、意味があつたかはわからない……

盟「不思議なのは、いきなり倒れてた事なのよねえ……」

志「倒れてた?倒れたんじゃなく?」

盟「ええ、未来の話では、出掛けようとして最初に正門まで行ったときには何もなかったらしいんだけど、鍵を抜き忘れた事に気づいて、戻ってきたらあなたが倒れてたらしいの、その間わずか十数秒、最初はイタズラか何かかと思っただけ、本気で気を失ってたからね」

志「そうだったんですか」

まあイタズラにされてたらここにはいないだろう。感謝(?)しな

くちや。

海「メーちゃん、未来たち連れてきたよ、買い物してたらしくて少し遅くなったけど……話は終わった？」

盟「ちようど終わったわ。後、志月君しばらくはここに住むことになったわ」

……はい？

海「そうなんだ、これからよろしくね」

志「え？あ、はい、こちらこそ……じゃなくて……！何で勝手に住むって決めてるんですか！？」

盟「どうせ自分が住んでたとこ探すんでしょ、先立つものがなきゃなんにもできないんだから、ここでバイトでもしてお金を貯めた方がいいと思うわよ」

……おっしゃる通りです（多分）

蓮「いや盟子さん、そういうことはちゃんとオーナーに言わないと。勝手に決めちゃダメでしょ……」

盟「大丈夫よ、蓮、あのオーナーだし……てか海斗、オーナーは？」

海「あの人なら今海のと真ん中で『ひゃっはー！！』とか叫びながら釣りしてるだろうね、さっき電話したら船が転覆しそうなくらい釣れてるって言ってたし」

盟「そう、そのまま転覆しちゃえばいいのに……」

いまさらつと不吉なこと言ったよ、この人

盟「まあいいわ、とりあえず自己紹介といきましよう。私たちはさつきしたからまあ後は適当にやつちゃって」

鈴「じゃあまずわたしから！！えつと、名前は鏡音鈴です！好きな食べ物はお肉とミカン！！よろしくね！」

未「初音未来っていいいます。いやあ、あの時はホントビックリしたよ！だってあんな短時間で人が倒れてるんだもん、近くには誰もいなかったしもうどうしようかと……」

蓮「未来姉、話し長いよ。あ、鏡音蓮です。鈴とは兄弟で、俺が弟です」

篝「篝音救美です」

鈴「……」

未「……」

蓮「……」

海「……え？終わり？」

篝「あ、はい」

盟「いやいや、普通はもっとあるでしょ、特技とか好きなものとか」
篝「特技ですか、そうですね……あ、大抵のトラブルは巻き込まれる前に逃げれますね、二人のおかげで危機感知がよくなりましたので」

鈴「だれだれ！？誰のこと！？」

未「鈴ちゃん……私がよく巻き込んだじゃうんだよ……」

流「じ、じゃあ次は私がしますね。巡音流歌です。盟子さん達とは（以下略）よろしくお願いしますね」

盟「じゃあ最後、学歩……ってあら？学歩もないじゃない」

海「ああ、今日登山してくるとか言って朝から出ていったよ。ちなみにさっきこんなメールが来た」

海斗さんがケータイを見せると、そこにはこう書いてあった
『遭難したなう』

（<ω・ヾ）テヘペロwww

てなわけでへるぷみww（^o^）ノシ』

盟「あのエセ侍め……まあいいわ、ほっときましょう」

学歩さん……あなたの事は忘れません（あつてないけど）

盟「じゃあ志月君、自己紹介お願いね」

志「え？俺もですか」

盟「当たり前よ、しばらく一緒に住むんだから。みんな自己紹介したから次は志月君の番よ」

志「あ、はい。わかりました……えと、四月一日志月です。気がついたらなぜかここにいました」

盟「……ということで海の館に新しい仲間が増えましたあゝ（笑）」

あれ？いつの間にか盟子さんが話の主導権握ってる……まあいいか
未「ところで志月君はここに来るまではどこに住んでたの？」

未来が定番でな質問をしてきた。まあ嘘をつくひつようはないから真面目に答えるが……

志「豊岡だけど……」

未「そう、どう？」

志「どっつて……兵庫県」

未「……？」

鈴「……？」

蓮「……？」

え？なにこの雰囲気？

鈴「流歌お姉ちゃん、兵庫県って？」

流「私も初めて聞くわ」

盟「兵庫縣なんてとこ、こくら辺にあつたかしら？」

海「いや、無いと思うけど……」

あれ？皆さんもしかして兵庫県知らない？

志「ち……地図ってありませんか？」

海「確かこの本棚に…… あった、小学校とかで使うようなやつだ
けど」

地図を受け取り、日本全土が乗っているページを探した……が、ない。

志「あれ？どこにも乗ってない……？」

世界地図のページを開いてみたが……

志「違う……こんな形じゃない……」

海「どうしたの？」

……そうか、ここにいる人たちが知らないんじゃない、俺がこの世界を知らないのか……。

志「いや、ただ帰る場所を今失っただけです」

海「そうなんだ……　つてえええええええええええええええ！！？」

蓮「ちよっ……海斗兄うるさい!!」

いやいや蓮くん、この場合海斗さんの方が正しいリアクションですよ。

篝「でもなんで地図見ただけで帰る場所を失っちゃったんですか？」
志「いや、地図をどう見ても自分の知っている世界じゃなかったんだ。まさかこんな二流SFみたいな事が起こるなんてな、ハハ」
なんかもう驚きを通り越しちゃって何が起こっても納得しそうだな、これは。

志「……と、言うことで、改めてよろしく願いします！」

トラック03　　続・続　別世界に迷いこんでも別に戦うわけではない（後書き

ふう……前書きで怒られてしまった……
まあそれは置いといて……

相変わらずセリフ多いな、自分の小説。

あ、あと今回から登場キャラが多くなるので台詞前に名前の頭文字
入れるようにします。

……来年に投稿できるかな……

でわでw……

流歌「ちよつと待ってよ！どうして私の自己紹介だけ省略してんの
よ！不公平じゃない！！」

いやあゝすまんすまん、思い付かなかったんだ

流歌「せめて救美ちゃんのようににはしてよ！！」

いや、救美のは頭にあつたから……

流歌「なら私のも考えときなさいよ！」

次からは気を付けますはい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8039x/>

平行世界のボーカロイドたち

2011年12月29日01時57分発行